

天の父母様の“夢” 実現できる時代が到来

家庭連合創立 57 周年記念式典を開催

9月22日、世界平和統一家庭連合の創立57周年記念式典が都内のホテルで盛大に開催され、先輩家庭をはじめ、平和大使、本部関係者、統一運動諸団体のリーダー、首都圏の牧会者・婦人代表などおよそ600人が集まりました。

昨年10月、千葉・幕張イベントホールに1万人を集めて「家庭連合出帆式」が開かれて早1年。今回の式典は、家庭連合の創立57周年を記念し、今日までみ言と真の愛で導いて下さった天地人真の父母様に栄光と感謝をお捧げすると同時に、真のお父様の聖和4周年を起点として、神氏族メシヤ活動と救国救世運動を通した VISION2020 勝利に向け、決意を新たにす場となりました。

司会の矢野治佳伝道教育局長の開会宣言で始まった式典は、天一国の歌斉唱、家庭盟誓のあと、田中富広副会長が報告祈禱を行いました。

真の父母様への花束贈呈に続き、真のお父様の遺志を引き継いでからのこの4年間、天の父母様の夢実現のため先頭に立って、全世界の食口・祝福家庭を導いてこられた真のお母様の歩みを映像で振り返りました。

主催者挨拶では、徳野英治会長が冒頭で「世界平和統一家庭連合への名称変更が実現して1年、今回の式典は、旧名称を併記しないで行う正式な家庭連合創立記念式です」と語ると、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

また徳野会長は、“怨讐の国”日本を真の愛で許し愛していかれた真のお父様の半生を振り返った上で、「2012年9月に真のお父様が聖和されて以降、お父様のご遺志を受け継ぎ、お父様の遺言である地上天国実現・世界平和実現の夢を果たすため先頭に立ってご苦労しておられるのが、真のお母様です。お母様をお支えすることこそが、霊界に行かれたお父様に対する最高の親孝行なのです」と語りました。

さらに、徳野会長は「今日の世界は、家庭崩壊や青少年の淪落、宗教対立、テロの脅威、地球環境問題など多くの難問に直面しています。しかし、それらを解決して余りある真理と方向性を持っているのが、私たち家庭連合なのです」と強調。「日本における VISION2020 の実現に向かって、夢と誇りと喜びをもって力強く邁進して参りましょう」と呼び掛け



ました。

来賓祝辞、祝歌に続いて、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長が基調講演を行い、以下のように語りました（一部抜粋）。

「日本家庭連合は重大な岐路に置かれています。新しい時代、希望の時代、天の父母様の夢と理想を成し遂げることができる時代が訪れ、天が望まれる心情文化共同体を成し遂げる時となりました。家庭連合は、私たちが真の愛で一つとなり、お互いの為に生き、新しい『孝情文化』を創建すべき時です。日本のすべての祝福家庭が天の父母様・真の父母様と一つとなって、一人ひとりが新しくなり、私たちの組織も新しくなって、真の改革と革新を成し遂げるべき時なのです。」

家庭連合の摂理的意味を私たちが必ず成し遂げ、真の父母様をお迎えして侍り、中断なき前進をしなければなりません。真の父母様が望まれる母の国・日本となり、天の父母様が成し遂げたかった実体的天一国の創建のため、私たちは中断なき前進をすべき時なのです。

そのためには最初に、ここに座っている指導者一人ひとりが、骨を削る覚悟と努力で自らを改革する必要があります。これまでの自分を完全に否定して、個人メシヤと家庭メシヤを完成して神氏族メシヤの使命を勝利的に完遂する私たちとならなければなりません。

そして個人天一国、家庭天一国と氏族天一国を勝利して、家庭連合の完成を通じた天一国の完全定着

を成すために、先頭に立つ指導者となっていきましょう」

晚餐に続くエンターテインメントでは、千葉鮮鶴合唱団の子供たちが、愛らしい振り付けとともに聖らかな歌声を披露。またフルートとサクスの叙情あふれる演奏に続いて、韓国リリーダーなどが韓国の歌謡曲「愛の花」を韓国語で力強く歌い上げ、会場を盛り上げました。

記念式典は、飯野貞夫特別巡回師、金山奉子東神奈川教区婦人代表、金満辰第5地区長の代表者3人が力強く決意表明をした後、五十嵐政彦第3地区長のリードで億万歳四唱を行い、閉会しました。

天のみ旨を成す優れた人材輩出を

宋総会長ご夫妻を迎えて福井・越前家庭教会献堂式



①説教を行う宋総会長
②献堂式に集まった教会員
③教会プレートの除幕式

9月25日、福井教区越前家庭教会の献堂式が、宋龍天・全国祝福家庭総連合会総会長ご夫妻をお迎えして行われました。雨や曇りの多かった前日までの天候が嘘のように、当日は初夏を思わせる強い日差しが降りそそぎ、絶好の献堂式日和となりました。

午前10時、宋総会長ご夫妻は小松空港から約1時間かけて「新聖殿」に到着。すぐさま第1部のテープカットの式典に臨み、続いて記念植樹、除幕式、聖別式を執り行いました。

第2部の記念礼拝は、100人以上の教会員で埋め尽くされた2階礼拝堂で行われました。

宋総会長は記念説教で、「今年3月に旧教会を初めて訪れたときは、とても狭くてみすぼらしく、日本で一番小さい教会ではないかと思ったので、きょうここにきて驚きました。越前家庭教会は完全に生まれ変わりました。越前の時代が開かれた今ここから新しい出発です。天

のみ旨を成す為に、優れた多くの人材が輩出されることは間違いありません」と祝福の言葉を贈りました。

また宋総会長は、真のお父様のみ言を訓読しながら、2020年までの7年路程と、真のお母様が80歳を迎えられる2023年までの7年路程の重要性を強調しながら、「新しい時代の出発として四大聖物を下さいました。真の父母様の直系の子女として生きていくことが出来る驚くべき時代を迎えたのです」と説明。その上で、「真の教会の成長とは、建物が立派になることではなく、どれだけ信徒が増えたのかが問題です」と述べ、伝道の重要性を訴えました。

第3部の記念午餐会では、エンターテインメントとして、壮年部・婦人部・韓国婦人会が合唱を披露。フィナーレでは、参加者全員が手をつないで輪になって「サランヘ」を熱唱し、全体が一つになって献堂式のすべてのプログラムが終了しました。

“祝福伝道のメッカとなれ！”

徳野会長が出雲家庭教会献堂式でメッセージ



①教会プレート前で写真に納まる責任者
②徳野会長の説教に耳を傾ける参加者
③説教を行う徳野会長



9月中旬から後半にかけて、徳野英治会長は、島根教区出雲家庭教会（9月10日）、西広島教区（11日）、富山教区（18日）などを訪れ、真の父母様の愛とみ言を伝えながら、各地の食口たちを激励しました。その中から、出雲家庭教会献堂式の様子を紹介します。



9月10日、徳野会長ご夫妻をお迎えし、出雲家庭教会（島根県出雲市）の新聖殿献堂式が行われ、約100人が参加しました。

出雲家庭教会はこれまで表に看板を出せないような事情の中で歩んできましたが昨年末、天に押し出されるように新聖殿に向けての動きがスタート。わずか半年余りで献堂にこぎ着けました。

一方、およそ1年半前から毎朝、食口たちが早朝祈禱を続けていく中で、昨年7月に徳野会長ご夫妻による祝禱を受けて出雲の聖地が決定。その後も変わらず早朝の精誠を重ね、さらに献堂式直前まで柄本公生教会長をはじめ、多くの食口が新聖殿の準備に携わり、文字どおり汗を流しながら精誠を尽くしました。

献堂式は、第1部では徳野会長ご夫妻、佐野清志第11地区長ご夫妻などがテープカットを行った後、教会看板の除幕式、聖殿聖別式、オリーブの木の植樹式が行

われました。

徳野会長はテープカットにおける祈禱の中で、日本神話の中心地である出雲が、神話だけでなく名実ともに日本の中心となり、この聖殿が、多くの人々が真理に触れ復興していく神氏族メシヤ活動の拠点になってほしいと祈りました。

第2部の記念礼拝では、主催者挨拶、来賓挨拶の後、徳野会長が記念説教を行いました。

その中で徳野会長は、日本の人口減少問題を取り上げ、「これは若き青年男女が結婚しない問題であり、結婚の意味や価値が失われている問題でもあります。今こそ家庭再建運動が急務なのです」と強調。その上で、「このような立派な教会が天から与えられたのは、現場の精誠が満ちたのと同時に、島根教区と出雲家庭教会に特別な使命があるからです。勇気と自信をもって伝道に邁進し、特に出雲は祝福伝道、ブライダル伝道のメッカとなってください」と祝福の言葉を贈りました。

参加者は「献堂式を通して、天が神氏族メシヤとして勇気と度胸をもって一歩を踏み出せと激励して下さい、それはお母様が『躊躇せず堂々と真の父母を証しなさい』と語られるみ言と完全に一つになって私の中に入ってきました。ブライダル・祝福結婚のメッカとしての出雲になれるよう頑張ります」と決意を新たにしていました。

教会発展と開かれた礼拝づくりに寄与

第7回西日本聖歌隊コンクール開催



①第1位のエコーグレイス（東大阪・藤井寺家庭教会）
②第2位のコールエスペランサ（熊本・熊本家庭教会）
③第3位のPolarstar Kanazawa（石川・金沢家庭教会）
④奨励賞を獲得した大阪家族聖歌隊ドリームホープ（南大阪・大阪家庭教会）

9月24日、大阪家庭教会（大阪市）で「第7回西日本聖歌隊コンクール」（主催・広報局文化部）が開催され、熱気溢れる発表の場となりました。

このコンクールは、教会の発展と聖歌隊の育成、そして聖歌隊文化の定着を願って企画。2008年から定例行事となり、西日本では今回で7回目となりました。

今回は、西日本を代表する10組の聖歌隊（岸和田、和歌山北、姫路、藤井寺、金沢、堺、熊本、大阪、鈴鹿の各家庭教会と吹田・新大阪・水都・豊中の4家庭教会合同チーム ※エントリー順）が参加し、どの聖歌隊も個性豊かな素晴らしい発表を行いました。

はじめに、本部広報局の猪熊広己文化部長が主催者挨拶を行い、「真のお母様が意識される新しい心情文化世界を表現する聖歌隊として、常に孝情の心で讃美することが重要です。コンクールの結果以上に、聖歌隊としての役割を再確認し、今後はさらに教会の発展と伝道の活性化に貢献できる活動を展開してください」と激励しました。

各聖歌隊は、課題曲として成約聖歌から任意で選んだ1曲を無伴奏で讃美した後、自由曲を発表。審査では、ハーモニー、美声、表現力、一体感、声量などの音楽性のみならず、事前に報告された日頃の礼拝貢献度も審査対象となりました。

厳正な審査の結果、第1位は第9地区東大阪教区藤

井寺家庭教会の「エコーグレイス」（課題曲：聖歌51番「険しき試練の」、自由曲：心の瞳）、第2位は第13地区熊本教区熊本家庭教会の「コールエスペランサ」（課題曲：聖歌11番「成和青年歌」、自由曲：思慕曲）、第3位は第7地区石川教区金沢家庭教会の「Polarstar Kanazawa」（課題曲：聖歌63番「山に育む」、自由曲：ヒカリ）そして奨励賞として第9地区南大阪教区大阪家庭教会の「大阪家族聖歌隊ドリームホープ」（課題曲：聖歌42番「神ともにいまして」、自由曲：Amazing Grace）が選ばれました。

今後も、聖歌隊文化のさらなる拡大を通して、伝道の運勢を巻き起こし、教会の発展と開かれた礼拝づくりに寄与していく方針です。聖歌隊の歌声が全国の教会に響きわたり、神霊に満たされた礼拝が広がっていくことが期待されます。

審査結果

- 第1位 エコーグレイス（東大阪・藤井寺家庭教会）
- 第2位 コールエスペランサ（熊本・熊本家庭教会）
- 第3位 Polarstar Kanazawa（石川・金沢家庭教会）
- 奨励賞 大阪家族聖歌隊ドリームホープ（南大阪・大阪家庭教会）

“4人に負けないよう生きていきます”

御嶽山聖和者2周年追慕礼拝



①追慕礼拝の会場に詰め掛けた参列者
②遺族を代表して挨拶する水野時子さん
③聖和者を偲んで披露された天父報恩鼓

9月11日、愛知県豊田市内の会場で「御嶽山聖和者2周年追慕礼拝」が聖和者4人の親族及び関係者ら約250人が参加して行われました。

追慕礼拝では、代表報告祈祷、追慕映像の上映、聖歌隊の讃美の後、天父報恩鼓の演舞では、伊藤琴美さんの弟と長山照利さんの姉と妹が、聖和者を偲んで舞う姿が参加者に感動を与えました。

続いて、小藤田喜文第8地区長が徳野英治会長のメッセージを代読。その中で徳野会長は、「先生は既に5人の子女を天に捧げた。それが大きな蕩滅条件となって天のみ旨が一気に爆発的に進むことを願って祈って来た」との真のお父様のみ言と、「私は皆さんすべてを霊界での本郷苑、すなわち真のお父様がおられる天国に共に連れて行きたいのです」という真のお母様が8月の聖和4周年記念式典で語られたみ言を引用しながら、「VISION2020に向かって夢と希望と勝利への確信を持って再出発しましょう」と力強く語り、遺族と参加者を激励しました。

献花に続き、聖和した4人の家庭の代表が聖和者に送る手紙を読みました。

水野利幸さんには、3男の聖修さんが「東京から母のいる豊田市に戻って来ました。お父さんの聖和を通して、人生について真剣に考えるようになりました。そして、先月約婚が決まりました」と報告。

三宅真一郎さんへは、次男の範昌さんが「お父さんと

話をするのが好きで、楽しかったです。時には人に優しくすぎて損をしていると思ったけど、いいお父さんでした」とのメッセージを贈りました。

伊藤琴美さんへは、兄の隆仁さんが「聖和式の時、参加者があまりに多くてびっくりした。参加された人の数を通して、私の知らない琴美を知り、兄として誇らしく、嬉しかった」と語りかけました。

長山照利さんへは、姉の鈴加さんが「1年間、照利を感じて成長できた。照利のおかげで太鼓が出来て、準指導員になった。孝進様の孝の心情を知ることが出来た」と感謝の言葉を贈りました。

続いて、鄭光根・東愛知教区長が「永遠の家族」と題して説教を行い、「肉身の死は永遠の別れではありません。肉身の死を越える神様の真の愛が存在し、私たちは永遠の家族であることを知ってください。家族の皆さん、いつか再び合う日まで、お互いに祈り、為に生きていきましょう」と呼び掛けました。

最後に、遺族を代表して水野時子さんが挨拶。「2年の間に新しい出会い、大きな喜びを運んでくれました。水野家では長男と次男が家庭を持ちました。為に生きる人生を通して、霊界で頑張っている4人に負けないように生きていきます」と語りました。

追慕礼拝の様子は、地元の大手日刊紙2紙が取材し報道しました。

“心の書写”で家族円満

全国各地で書写イベント開催

9月も全国各地で書写イベントが開催され、真のお父様の自叙伝『平和を愛する世界人として』の書写を通じた復興の輪が広がっています。



①講話をする浅川勇男先生 ②三代家庭による証し ③「志」をテーマにした劇団 YOUTH ④美しいハーモニーを披露した川崎ファミリー合唱団 ⑤川崎市で行われたファミリーフェスティバルの参加者 ⑥講話をする篠崎幸郎本部伝道部長（東岡山教区のファミリーフェスティバル） ⑦書写を行う参加者（同） ⑧講話に耳を傾ける参加者（同） ⑨西東京教区の書写の集いで千羽鶴を折った女の子

9月25日、川崎市内の会場で「第40回 愛天愛人愛国『幸せを学ぶ自叙伝心の書写』ファミリーフェスティバル」が午前、午後と2回に分けて行われ、合わせて約2000人が参加しました。

川崎家庭教会はこれまで、自叙伝「心の書写」を中心とした「愛天愛人愛国セミナー」を開催するとともに、家庭や地域レベルで書写会を行うなど、書写を通じた基盤拡大を推進。そうした基台の上で、このたび40回目のセミナーを開催するのを記念し、2000人規模のフェスティバルが実現しました。

青年学生が中心となって行われた午後の部は、劇団 YOUTH による演劇「志」で開幕。家族の絆とともに、世のため人のために志をもって立ち上がる青年たちの姿を、ダンスなどを交えて描きました。

来賓挨拶と同フェスティバルの李殷徳実行委員長による主催者挨拶のあと、浅川勇男先生が「家庭は天国の出発点」と題して講話を行いました。

浅川先生はその冒頭、「文鮮明先生の自叙伝の短い

節を真心を込めて毎日書き写す『書写』を行っていると、不思議なことに願い事がかなっていくという証しが全国各地に広がっています」と説明。「たくさん起こっている素晴らしい出来事を中心に家族円満があります。書写を続けていくと、自分の心が変わり、（家族に対する）恨みがきれいに溶けていき、夫や妻が輝くように見えるのです」と述べました。

また、浅川先生は「水道の蛇口から水を出しっ放しにして下に洗面器を置くと、やがて洗面器から水があふれ出し、流れていきます。同じように家族の愛が深まり、夫婦の愛や親子の愛があふれ出すとき、それはやがて親族や町内、社会、国、そして世界に広がっていくのです」と強調。その上で、「経済問題や環境問題など、不幸の理由はいくらでもあるように見えますが、一番の不幸につながるのは、夫婦関係の問題です。逆に夫婦円満で夫婦が一つとなったとき、すべては解決します。『家和して万事成る』。それが文先生の悟られた世界なのです」と述べました。

フェスティバルのフィナーレとして、130人から成る「川崎ファミリー合唱団」が美しいハーモニーで2曲の歌を披露。最後に全体で記念撮影をして、ファミリーフェスティバルは幕を閉じました。



9月11日、東岡山家庭教会は岡山県瀬戸市内内の会場で「幸せを学ぶ自叙伝心の書写 ファミリーフェスティバル in 東岡山」を開催し、新規ゲスト約120人を含む561人が参加しました。

フェスティバルは、地元岡山で活躍する女性歌手による歌がオープニングを飾り、自叙伝書写の証しでは書写を通して自分の心が変わり、結果として夫や家族との関係が円満になったというエピソードが披露されました。

また、講話を行った篠崎幸郎本部伝道部長は、神様が人類の親であることや「四大心情圏」、夫婦の大切さなどについて、分かりやすい言葉で解説しました。

引き続き、書写実践、瞑想を行い、祝福を受けて講演の部が終了。最後に、抽選会を行い、豪華景品のほか、参加者全員に子供たちが描いた絵に「ありがとう」の言葉が添えられたカードと飴が配られました。

参加者からは「夫婦とは何なのかについて考えさせら

れました。会社の同僚や友人からは、お嫁さんの愚痴ばかりです。夫婦の大切さを改めて考えることができました。側にいて当たり前してくれることが有り難いと感じることが出来ました」（新規参加者）といった感想が寄せられました。

同日、西東京教区の主催で「9.11 世界平和祈願2000名書写の集い」が都内の会場を中心に、インターネットで6教会を結んで開催。アメリカの同時多発テロから15年目を迎え、平和の祈りを込めて参加者全員で千羽鶴を折りました。

また16日には千葉市内で「心の書写講演会6周年記念大会」が開かれ、約450人が参加。大会では、全員に祝賀のお饅頭が手渡されました。

日付	イベント名	主催者	参加者数（人）
9 / 8	自叙伝心の書写	北大阪教区	400
9	大阪 family 書写フェスタ	第9地区	200
10	自叙伝書写大会	多摩東京教区	300
11	9・11 世界平和祈願書写の集い 自叙伝書写フェスティバル	西東京教区 東岡山家庭教会	2000 560
12	自叙伝 心の書写会	愛媛教区	300
15	自叙伝書写会	群馬教区	400
16	書写講演会	南千葉教区	450
18	書写奉納式	南福岡教区	400
21	心の書写大会	新潟教区	300
23	幸せな家庭づくり講演会	宮城教区	400
24	自叙伝心の書写大会	西北東京教区	500
25	心の書写ファミリー・フェスティバル	川崎家庭教会	2000

み旨の最前線で有終の美を飾りたい

「40 年海外宣教特別功労賞」受賞 伊達勝見・かほるさん夫妻

8 月 20 日、韓国・天正宮博物館で開催された聖和祝祭祝勝会の場で、伊達勝見・かほるさん夫妻は、真の父母様から「40 年海外宣教特別功労賞」を授与されました。現在、南米パラグアイでレダ開発プロジェクトに取り組む伊達勝見さんに現在の心境などを聞きました。(聞き手=広報局・鴨野 守)



——宣教 40 周年に際して、真の父母様から直接受賞されました。感想を聞かせてください。

驚きと感謝の思いでいっぱいです。と同時に、40 年という長い期間に自分は天の前に何を捧げたのだろうかという悔恨の情が強かったです。受賞式に、パラグアイで活動している私の代わりに相對者が参加できたことを有り難く思いました。

今まで苦勞の連続で支えてくれた相對者への恩返しが少しでもできたのではないのでしょうか。相對者も、真のお母様にお目にかかって握手していただき、お母様の瞳の中に大きな母親の愛と信頼を感じたようです。

——これまで、ナウル、バングラデシュ、ラオス、パラグアイで宣教してこられたとお聞きました。

①真のお母様から「40 年海外宣教特別功労賞」を授与された伊達かほるさん（右端）
②伊達勝見・かほるさん家庭
③パラグアイ・レダで作業をする伊達勝見さん

1975 年の世界宣教で私が最初に派遣された国は、南太平洋の真中にあるナウルという人口数千人の島国でした。本来、日本、米国、ドイツの 3 カ国の宣教師が選ばれたのですが、国が小さいので一人しか宣教師はいませんでした。英語も十分に話せない中で、不安な気持ちが強かったのですが、自分の判断で行動できる喜びを感じました。制約の多い国なので長期滞在はできず、オーストラリアのメルボルンの教会を拠点に、多くの島々を回ってナウル人を探していきました。

相對者と深い授受ができ、忘れがたい貴重な 3 年間でした。ニュージーランドにいたとき、現地で導かれた日本の姉妹に講義しましたが、彼女はその後、日本で献身的に活動しています。

1978 年に日本に戻り、新しくバングラデシュが宣教国として与えられました。イスラム教の最貧国の一つで西パキスタンと戦って独立したばかりでした。

最初の印象は、中世の国に放り込まれたような異常な感覚で、慣れるのに半年ほどかかりました。家庭を出発して子女を授かり、その地で家族としての生活ができました。

ホームチャーチの活動を通じて出会った人々と共に社会活動を展開しました。優秀な青年医師と共に I R F F（国際救援友好協会）を設立し、医療奉仕や学校建設を行う一方で、有能な大学教授と共に P W P A（世界平和教授アカデミー）を結成。彼らは国際会議でも活躍してくれました。



また、宗教者会議や青年宗教者奉仕団（R Y S）にも多くの人々が参加し、良い貢献をしてくれました。元大統領、国会議長などと親しくなって国の滞在の便宜を図ってもらいました。

その後、国家メシヤとして東南アジアのラオスが与えられました。共産主義政権の国で、宗教活動は極めて制限されています。しかし人々は大変親日的で、日本人には住みやすい場所です。ほかの N G O 団体のメンバーたちと、エイズ防止活動など色々な活動をしました。学校支援のためのマイクロファイナンスなどを現在も行っています。

1999 年からパラグアイのレダ開拓の摂理が出発し、2006 年ぐらいから本格的に関与しています。農業や豚の世話などをしましたが、現在は植樹活動を中心に活動しています。

——真の父母様との思い出を教えてください。

宣教時、靈的には色々と神様、真の父母様に導かれ、守られる体験がありました。米国で宣教師修練会があった時、直接、真のお父様と出会う機会があり、「今、試練や苦勞を経験することは、後の恵みとなるんだよ」と言われたみ言が忘れられず、その後、自分の歩みの支えとなりました。

——天の父母様（神様）を感じた時はどんな場面でしたか。

祝福家庭の宣教師として初めて入る国々が多く、神様が自分を通じて、その国と国民を愛したい気持ちが伝わって来ました。その国を出なければならぬ時には、神様が「自分のことを知ってくれる人がいなくなる」と寂しく思われる心情が伝わってきました。神様は自然を通じても多く語りかけて下さり、



時には親となり、時には友達となって力を与えて下さったので、孤独にはなりませんでした。

——最もつらかったことを聞かせてください。それをどう克服されましたか。

一番つらいのは、やはり信頼していた人から裏切られたり、非難されたりすることですが、その人を恨まずに、自らの反省の材料として謙虚に受け止めるようにしています。事実をそのまま受け止めて自分の責任として覚悟すれば、力が出てくる体験をしました。

そして、神様から恵みを受けた時を思い出して、変わらない愛で私たちを導いておられる神様を信頼していくことだと思います。

——パラグアイでの活動が長いですが、伊達さんのレダに対するお気持ちを聞かせてください。

レダは、神の国の保護地として重要な場所になっています。今までは人知れず開拓の道を続けてきましたが、中田実所長を中心に川魚パクーの養殖に成功し、放流式には現職の大統領も訪れました。

また、タロイモの水田栽培に成功して、人類の食糧問題に貢献できる可能性が高まって注目を浴びています。最近では農業に造詣が深い現職副大統領が痛く感動して、この芋の栽培普及を行いたいと意欲を燃やしています。

当初から毎朝 4 時からの訓読の伝統を守り、安侍日にはレダ開拓の出発のみ言を訓読しています。

これからも大自然の中で、み旨の最前線を歩めることに感謝し、人生の最後を最高の心情で迎えたいと願いつつ前進していきたいと思っています。

南東京教区で天宙既成祝福式

南東京教区は9月19日、都内のホテルで「2017天地人真の父母天宙既成祝福式」を開催し、既成家庭18組、独身祝福22組、合わせて40組が新しい出発を成しました。

主礼の堀正一教区長（右写真の左）はメッセージの中で、「結婚は二人のためだけにあるものではありません。結婚をスタートする時点では、二人が喜んで出発していくのが大事ですが、結婚を愛によって成就していくためには、自分以外のすべての人のために結婚に臨んでいくという姿勢を忘れてはなりません」と語りました。

南東京教区における祝福式は、神氏族メシヤ摂理の一環として、2014年から取り組みをスタート。この1年では920組、累計では2410組が参加しています。祝福式の後には聖和式や追慕礼拝、受講に至る流れができています。今年はさらに、自己牧会プログラムの導入により、食口自体が復興することで、氏族伝道推進の大きな底上げにつながっています。

南東京教区では、食口の復興から新規伝道、祝福伝道、氏族伝道へと善の循環を拡大し、VISION2020に向けてさらに邁進していく方針です。



第1地区「第22回秋の大讃美・原理大復興会」を開催

9月18日、札幌市内のホールで「第22回秋の大讃美・原理大復興会」が行われ、新規のゲスト約150人を含む1200人余りが参加。普段は各教会の礼拝で讃美している15の聖歌隊が全道から集まり、「救国救世と真の家庭運動」のテーマのもと、聖歌や讃美歌、ポップス曲、オリジナル曲などを演奏し、神様・イエス様・真の父母様を称えました。

柴沼邦彦講師（右写真の中央）は講演で、「良いものも悪いものもすべてを飲み込んでしまう神の愛の精神こそが“パンタナール精神”です」と指摘。その上で、「夫婦の性格が不一致なのは当たり前で、それは離婚の理由にはなりません。互いの違いを認め、相手のために生きることが重要であり、

配偶者を幸せにすることが自分の人生の目的。世界を平和にしたいのなら、私の家庭を良くすることが先決です」と語り、多くの参加者に感銘を与えました。

大讃美原理大復興会は、讃美とみ言を通して神霊と真理による価値転換と、善なる霊界協助の基台づくりを目指して2011年にスタート。新規伝道の窓口になるとともに新しい食口の教育の場ともなっています。



東東京教区「祝福パネル展示会」を開催

9月16日から18日まで、東東京教区新宿家庭教会で「世界に広がる理想家庭」をテーマに祝福パネル展示会が開催され、地方議員をはじめ、氏族、新規、再復帰のゲスト140人を含む500人以上が参加しました。

パネル展では、①今日の日本社会の問題②祝福の意義と恩恵③祝福の歴史④世界に広がる祝福とメディアで紹介される祝福家庭⑤青少年のための講座——の5つのテーマについて、全部で106枚のパネルを用いて紹介。来場者には、壮年部や青年部のパ

ネラーが付けてポイントを解説し、統一運動の核心である「祝福結婚」について分かりやすく説明しました。特に青少年の参加者には、純潔教育の内容を通して将来の祝福結婚に希望を抱いてもらうことを目指しました。

今回のパネル展は、「チーム新宿」の精神で全部署が一丸となって企画、準備、当日の運営等を分担。内部食口の復興やスタッフの養成とともに、青年祝福の推進においても大きな一歩となりました。



統一運動ニュース

福岡でファミリー大運動会

9月25日、福岡市内の施設で「ファミリー大運動会」が行われ、多くの家族連れを含む約530人の参加者が集まりました。

大運動会では、参加者の年代別に競技を実施。また全員参加の「〇×クイズ」なども盛り込み、家族全員が参加できるように工夫しました。最後には、

豪華賞品を用意した抽選会が行われ、大いに盛り上がりました。

同じ志を持つメンバー同士で競技に参加し、他のメンバーを応援し、また一緒に食事をとりながら、全体がより一体感を深めることができた貴重な時間となりました。

